

## 第2回 田辺市都市計画マスタープラン策定委員会 議事要旨



### ■委員からの主な意見

- データに基づいた考え方や、即地的にどこで人口が増えて、どこで減っているかなどの空間的な状況もあると思うし、同じ都市計画区域の中でもエリアごとの特徴があると思う。
  - 次回では、田辺の人口分布や年齢構成を折り込んだマスタープランの話をいただきたい。
  - 津波が来るかもしれないところに多くの人が住んでおり、これからも開発は進んでいくと思う。防災と両立してやっていければいいと思うが、一番安全な場所で暮らしたり、活動を行なうのが一番安心だと思う。
  - 田辺市で地価が上がっているのは全て高台となっており、その反動で海拔4～5mあたりの土地が投資しにくい状況となっている。
  - 東日本大震災で津波があった地域では、高台に居住地区のようなまちが出来ているとのことだが、そういう地区を前もって作るということとはできないのか。
  - 具体的な高台移転の場所を示すなどはマスタープランの役割を超えていると思う。
  - まずコンパクトシティとは何かというところから始めなければ、まだ分かっていないところがある。
  - 田辺らしいコンパクトシティというのは、むしろ委員の方から積極的に意見を出す必要があると思う。恐らく事務局としても何がどう田辺らしいのかを考えるのは難しいと思う。
  - コンパクトシティのあり方としては、専門家の間でもコンパクトシティが可能かどうか議論が分かれている。
- ※その他、会議資料や運営方法をはじめ、都市計画マスタープランの改定に対する市（事務局）への様々なご意見やご要望も頂きました。

### ■今後の予定

- 頂きましたご意見などを踏まえ、改定に向けた取り組みを進めます。